



お祝いの言葉

新入生の皆さん、ご入学、まことにおめでとうございます。愛媛大学を代表して皆さんを歓迎いたします。また、晴れの門出をご一緒に迎えられましたご家族の皆さま方にも、心よりのお慶びを申し上げます。

はじめに、本年度の入学式を中止せざるを得なかったことについて改めてお詫びを申し上げます。新入生の皆さんをはじめ、関係の皆さま方にとっては、節目となる大切な行事であり、大変心待ちにされていたことと承知しておりますが、これも、新型コロナウイルス感染のリスクから皆さまをお守りするための苦渋の決断でありました。どうか、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

さて、愛媛大学は、7学部6研究科を有する四国最大の総合国立大学で、昨年には記念すべき開学70周年を迎えることができました。大学憲章には、「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」、「世界とつながる大学」を掲げており、これまでに10万名を超える卒業生を社会に輩出しています。本学では、全学的な教育指針である「愛大学生コンピテンシー」のもと、経験と研鑽を積んだ教職員による充実した支援環境の中で、質の高い教育を各学部において提供しています。どうか安心して勉学に励んでください。

今、新型コロナウイルス感染が世界中を混乱に陥れています。むろん、わが国も例外ではなく、この目に見えない敵と対峙する中で、皆さんの大学生活が始まります。新型コロナウイルス感染の阻止に向けたメッセージが連日発信されていますが、この世界的な危機にあたり、愛媛大学の学生として、また社会の一員として強い自覚を持って行動していただきたいと思います。また、4月から5月にかけては、感染の推移を踏まえ、授業日程や授業方式が随時変更されるかも知れませんが、皆さんには是非、適切にそして臨機応変に対応してください。

こうした中、新入生の皆さんに必要とされるのが、自らを適切に管理する「セルフ・マネジメント」の能力です。高校までの生活とは異なって、自分自身で目標、計画を立て、時間を有効に振り分ける中で、自律的な生活を営まないといけません。これは、大学院に進まれる皆さんにとっても同様の話です。そこで、これからの大学生活をより「Happy」なものとするためのアドバイスを「3つのH」という形で皆さんに贈りたいと思います。



一つ目のHは「ハングリー」、キーセンテンスは Be hungry for anything ! です。

新入生の皆さんには無限の可能性があり、様々な体験を積む中で日々成長していきます。是非、大学生という特権を最大限に生かし、あらゆることを貪欲に吸収してください。最初のうちは知らないこと、分からないことばかりでしょうが、未知の世界を自分で乗り越えていくことこそが「大学での学び」です。ただ待つだけではいけません。何か新しいことはないか、面白いことはないかというモチベーションの中で、自らの行動範囲を積極的に広げていって下さい。

二つ目のHは「ヘルス」、キーセンテンスは Be healthy with exercise ! です。

健康な身体作りは、大学生活において、知識と技能の習得と同じくらいに重要です。特に、高校時代にスポーツをしていなかった人、まずは好きなことから始めてみてはどうでしょうか。是非、どこかのクラブ・サークルの門を叩き、身体を鍛えましょう。愉快的仲間たちが皆さんの訪れを今か今かと待っています。もしも走ることが好きなら、自分だけでもできる朝のジョギングという選択肢もあるでしょう。運動～エクササイズは生活にいいリズムを生み出し、皆さんの日々の勉学にもポジティブな効果をもたらすに違いありません。

三つ目のHは「ハーモニー」、キーセンテンスは Be harmonious with everybody ! です。

他人と協調し、いいチームワークの中で仕事ができる能力、すなわち協働力はこれからの社会で不可欠な要素です。そこでは、自分ファーストではなく、周りの人間の心を理解し、他者を支えるスタンスが肝要です。この力を磨く近道は、大学という多様なコミュニティを活用して、出来るだけたくさんの人と触れ合ってみる事です。思い切って、今までなら避けていたような人にも話しかけてみましょう。そんなオープンな姿勢が皆さんの「心の受け皿」をさらに大きくしていくはずですよ。

Welcome to 愛媛大学！皆さんにとって二度とない「真」の青春時代です。これからの大学生活で、この「3つのH」が少しでもお役に立てば嬉しい限りです。

まずは一丸となって、この未曾有のコロナウイルス感染禍を乗り越えましょう。繰り返すにはなりますが、皆さん一人一人が強い自覚と責任を持って行動することが何よりも大切です。

最後に、みなさんの今後のご成長を心より祈念し、私からのお祝いの言葉といたします。



令和2年4月

愛媛大学長

大橋裕一